



発行元: iP-U 事務局 T321-8505 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学 Tel: 028-649-5411 URL: <http://c-bio.mine.utsunomiya-u.ac.jp/iP-U/>

iP-U 修了生と現役受講生の 交流会を開催しました 9月19日(土)

例年は宇都宮大学で開催する交流会を、今年度はオンラインで行いました。当日は、国内各地だけでなく、海外からも修了生が参加してくれました。オンラインも良いものですね。

始めに4名の修了生が、大学での学びや大学生活、サークル活動・社会参画について発表してくれました。特に、iP-Uでの学びが現在の自分にどう繋がっているかや、iP-Uと高校生活の両立、進路の決め方などは、受講生にとっては興味深かったのではないかでしょうか。

その後行われたグループ座談会では、受験や留学、現在の研究について多くの質問が出るなど、時間いっぱいまで貴重な交流が図られました。

●紹介していただいた大学●

アメリカ St.Olaf College
宇都宮大学農学部
お茶の水女子大学文教育学部
自治医科大学医学部

●受講生の感想●

- ・様々な分野に進まれた先輩方の話を聞くことができた。iP-Uを受講して終わりではなくその後の進路がどういったものなのかまで知ることができ、自分自身を鼓舞するきっかけになった。
- ・iP-Uプログラムに参加したのだから、進路は理系でなくてはならないと思うことがあったが、交流会に参加したことにより、自分のやりたいことを最優先に進路を選択したいと思った。

今回の交流会は、修了生の方々の「こんな状況だからこそ、受講生と直接話したい」というリサーチクエスチョン（思い）から始まったデザインプロセス（PDCAサイクル）が、体現されたものだったと思います。基盤プラン受講生のみなさんも、ぜひ iP-Uでの学びを、学校生活や将来の研究の場で実際の行動に繋げていってください。

10月前半の予定

10日(土) デザイン力実践講座Ⅱ

プレゼン力養成講座②

11日(日) 花の形を制御する遺伝子について

EC Lab④

10月・11月の選択科目B(EC Lab)のお願い

10月11日(日)、10月31日(土)、11月3日(火・祝)のEC Labは、みなさんが必要な回数を受講できるよう、予約の調整を頻繁に行ってています。

予約内容が変更になった受講生には、都度LINEで連絡していますが、確認漏れを防ぐために、各自でこまめにHPの「EC Lab予約状況」を確認してください。

9月のリフレクションシートから

ミジンコは基本メスしかいないということがとても衝撃だった。メスだけの生殖なのに、卵を作れるというのがすごく不思議なのだが、どういった原理なのだろうか。また、その卵は有性生殖で作られる卵と違いはあるのだろうか。

ミジンコの生態

～その驚くべき環境適応能力

先生の、「世の中全てが確率論だ」という話が印象に残った。確実だと言えることはなく、可能性は無限にあるのだから、先入観にとらわれずに疑いを持って物事を見ることで予想外の結果が出たり、それが研究につながったりすることが往々にしてあるということを聞き、できないかもしれないと思ってもとりあえずやってみるという精神を持っていきたいと思った。

EUV 光のスペクトル解析

～擬似モーズリーの法則～

東口武史先生の授業が新たに追加されました
「CT, MRI, がん治療量子線などの
大型医療機器のしくみ」

11月14日(土)10:30～12:30

Zoomによるオンライン授業

この講座で、研究するときのポイントを知ることができた。ミスをミスとして捉えない、最初の目的に固執しない、自分の知識に依存しすぎない、ということだ。実際には難しいことだが、信念を持ち続けることができれば乗り越えられそうな気がする。

幸運をつかむコツ

(科学的発見のケーススタディ)

先生方は、土壤に興味を持っているだけでなく、方々にアンテナを張って、一つ一つのことに考えを持っていた。土壤の研究が、ジブリアニメの中の土が及ぼす影響にまで繋がっていることを聞き、自分の興味のあることをここまでとことん極めていることに驚いた。

「先生は、土の研究を長年続けて、興味や関心、好奇心が薄れていくことはないですか？」の問い合わせに対して、「土の気持ちがわかるから、今では使命感のようなものが芽生えている」という答えに、研究者のあり方が見えた気がして感動した。

SDGs 時代における

社会異形成基盤としての土壤の役割

編集 後記



最近、別のウイルス禍について考えている。数年前からブレイン・マシン・インターフェイス (BMI) の研究が盛んだが、脳がコンピューターやインターネットと接続するようになると、脳に感染するコンピューター・ウイルスが現れるだろう。その「新種のウイルス」に感染すると記憶が書きかえられたり、行動を操作されてしまう。そこで、脳に'wifi'が届くのを防ぐ帽子の着用が推奨されたり(新しい生活様式)、脳に「ワクチン・ソフト」をインストールするようになるが、毎年のように新しい「ウイルス」が現れ、「暴走」したり「炎上」する人々が社会問題化する。。。22世紀のために、我々はどんな研究を始めると良いだろうか。